



研究テーマ

主体的な学びをととした確かな学力の向上をめざして

「山北スタンダードカリキュラム」を意識した校内研究の推進

※「山北スタンダードカリキュラム」とは、平成28～31年度(4年間)の「かながわ学びづくり推進地域研究」成果を生かして作成した、幼児期から中学校卒業時までに育てていきたい子どもたちの社会的表現力を育成する基盤となる「受け取る力」「伝える力」の段階例示



今年度は、ここに示された姿を意識して、各園・学校のテーマに即した研究を行っています。

幼児教育

◎人と積極的に関わる力の育成

- 非認知能力に着目した研究推進
- 主体的に遊びを発展させていくことができる環境づくりの取組推進

- 【受け取る力】
- ・話し手の目を見る
 - ・反応する
 - ・最後まで聞く
- 【伝える力】
- ・あいさつや返事をする
 - ・遊びの中で、知っている言葉を使って自分の気持ちを伝える
 - ・困ったことを伝える
- ⇒SOSの発信ができる

小学校教育

◎対話力の育成



- 非認知能力育成の継続
- 主体的な学びにつなげる指導と支援

- 【受け取る力】
- ・相手の話を共感的に、最後まで聞く
 - ・自分の考えと比べながら聞く
 - ・相手の考えや意図を理解しようとして聞く
- 【伝える力】
- ・自分の立場を明確にし、根拠や理由をつけながら発言する
 - ・相手に伝わりやすいように話す
 - ・友達の考えとつなげて話す

小学校（推進校：川村小学校 三保小学校）

- ・各校の実態を踏まえて研究テーマを設定し、一人学びの時間やICTの活用、「わかる」「できる」「伝わる」喜びと実感を大事にした授業づくりと教科の系統性を意識した指導をととして、子どもたちの「思考力・判断力・表現力」を育成
- ・外部講師(元早稲田大学教授 露木和男氏)を招聘しての授業研究

中学校教育

◎社会的表現力の育成



- 育まれてきた非認知能力を社会で生かす判断力の育成
- 生きるために何が必要で、何を学ぶべきか、自ら考えられる力の育成

- 【受け取る力】
- ・相手の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめる
 - ・聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりする
- 【伝える力】
- ・根拠をもとに自分の立場を明確にし、相手が理解納得できるよう論理の展開を考えて説明する
 - ・場の状況に応じてことばや表現を工夫し、分かりやすく伝える
 - ・合意形成に向け、互いの発言を生かしながら話し合う

中学校（推進校：山北中学校）

- ・「主体的・対話的で深い学びづくり」をテーマに、RPDCAサイクルに基づいたネクストプランを生かした授業づくり・授業改善をととして、子どもたちの「社会で生かせる思考力・判断力・表現力」を育成
- ・外部講師(元帝京大学教職員大学教授 矢野英明氏)を招聘しての授業研究



社会の中で他者とよりよく関わりながら、自分らしく生きる山北の子ども

今年度研究推進の特徴

- コロナ禍による研究推進方法の変化
 - ✓ 密を避ける授業参観の模索
 - ✓ ポイントを明確にしたシートを活用した各校の取組等情報交換
 - ✓ 小規模校における双方向オンライン授業実践とその参観

次年度の研究の方向

- 0～15歳までの一貫した教育・保育
 - ✓ 園・学校研究の深化
 - ✓ 就学前カリキュラム・スタートカリキュラムの具体化、充実
 - ✓ 山北スタンダードカリキュラム活用
 - ✓ 園・学校間交流事業のさらなる促進
 - ✓ 教育・保育の担当窓口の一元化